

CI強化のために

1. プロジェクトの位置付け

- 急速な環境変化に的確に対応し、より付加価値の高い中央銀行サービスを提供するため、「組織活性化プロジェクト」の推進を開始(2003年9月1日)、
 ①柔軟で弾力的な組織作り(組織・人事制度の見直し)と、②本支店を挙げた仕事の点検・見直しを実施。
- CIプロジェクトは、②の仕事の点検・見直しの一環として、対外広報の基盤整備・強化を担当。
 - ・ 仕事の内容・進め方の見直し ⇒ 「事務改善運動」(同年10月2日開始)
 - ・ 組織内の情報(知財)を共有・活用する
 ⇒ 「ナレッジ・マネジメント・プロジェクト」(同年10月20日発足)
 - ・ 対外広報の基盤整備・強化 ⇒ 「CIプロジェクト」(同年10月20日発足)

2. 今回CIプロジェクトの狙い

組織活性化プロジェクトの検討に歩調を合わせ

- ① 日銀に対する外部の認知度・理解度・関心度を改めて調査のうえ、
- ② よりわかりやすい広報を行うための基盤整備・強化を図る。

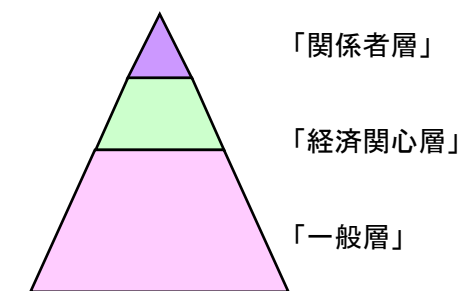
検討期間は約半年。

可能な案件から順次実行に移していく。

3. 日銀のイメージ

① 認知度・関心度

- ・ エコノミスト、経済関係記者等の「関係者層」
 —— 関心の中心は金融政策。
- ・ 「経済関心層」、「一般層」
 —— 全般的に認知度、関心度ともに低い。
 —— 日銀関連情報の大半をマスコミ経由で入手している。
 —— 「経済関心層」は、金融政策自体には関心があるが、難解との声が多い。
 —— 金融政策以外の業務に関する認知度は低い。



② 「経済関心層」の広報内容、媒体に関する関心度・ニーズ

	内 容	広報媒体
「日本銀行の政策や業務を知っている」層	① 金融政策	① HP・セミナー
	② 業務等の基本的機能	② 建物見学
「日本銀行の政策や業務を知らない」層	① 業務等の基本的機能	① 建物見学
	② 金融政策	② HP

4. 当面の課題と具体策

（ C I 強化に関する考え方・方針等 ）

- ① 各層の興味の在り所に応じたコンテンツの充実を図る。
- ② 見せ方、接し方の工夫・改善を行う。
- ③ 様々なイベントを捉えた広報を検討する。
- ④ 支店、事務所、金融広報中央委員会との連携強化に努める。

（ 具体策 〈案〉 ）

（1）政策・業務への理解・関心の浸透

○ 各種リサーチペーパーの編集見直し

- ・ 効果的・効率的な情報発信を目指し、各種のリサーチペーパー・公表物の内容、編集方針等を見直す。
- ・ 「日銀レビュー」の創設
 - 「マーケット・レビュー」(市場局)と「経済点描」(調統局)を統合。 広くリサーチ部署が執筆する対外公表シリーズを創設。第1号は4月下旬に公表予定。
- ・ 「日本銀行調査月報」の見直し
 - 内容・構成を見直す方向で検討。

○ HP「キッズコーナー」の開設 〈別紙1〉

- ・ 『にちぎん☆キッズ』をホームページ上に開設(4月20日)
 - お金、銀行、中央銀行の機能等をアニメーション、ゲーム等の要素を取り入れ、子ども向けに「分かりやすく」、「親しみやすく」解説。
 - 当初は2話(「お金のしくみ」、「お金のひみつ」)でスタート、16年度中にさらに4話程度追加の予定。

○ 日銀紹介ビデオ等の動画配信 〈別紙1〉

- ・ ホームページ上で日銀紹介ビデオ(「This is 日本銀行」)の動画配信を開始(4月20日)。
 - より多くの人が視聴可能に。 教育現場での更なる利用も期待。
 - 今後、ユーザーの反応を見ながら、動画コンテンツの拡大を検討。

○ ホームページの構成見直し

「関係者層」が主なユーザーであるホームページを、「経済関心層」、「一般層」も利用、理解しやすいホームページ構成に(16年度から抜本的見直しに向けて検討を開始)。

○ 広報誌「にちぎんクォーター」の編集方針見直し

「経済関心層」、「一般層」への分かりやすい情報発信のために、「にちぎんクォーター」の編集方針を見直し。

- ・ 「経済関心層」を中心に、「一般層」にも受け入れられる内容に。
- ・ デザイン、コンテンツ等も、外部専門家の意見を参考に見直し予定。

—— 本年夏頃までに引渡しの予定。具体的な引き渡し方法、展示開始日・方法等は、調整中。 小樽・金融資料館とのシナジー効果も期待。

○ 那覇支店新店舗におけるレイアウト検討

—— 16年度に新店舗のための用地を取得予定（完成時期は未定）。新店舗では広報スペースの確保や金融広報・教育イベントを検討。

（2）直接的接点の拡大

○ 旧館のライトアップ、地下金庫の一般公開 <別紙2>

- ・ 日本橋地区活性化の一環として地元団体からの要望に応える形で、旧館のライトアップを実施。
- ・ 前庭を地元団体のイベント開催場所として提供し、それにあわせてライトアップを開始の予定（夏～秋頃の予定）。
- ・ 日本銀行の象徴である旧館大金庫を公開。
- ・ 本年夏頃の公開を予定。

○ 現金輸送用貨車（マニ車）の寄贈・展示 <別紙3>

- ・ 銀行券の輸送に使用してきた貨車（「マニ車」）の展示を通じ、日本銀行の業務や役割に対する理解を深める。
- ・ 小樽交通記念館で展示することで合意。

（3）支店、事務所、金融広報中央委員会との連携強化

○ 情報サービス局に「地域サポート」担当を設置

- ・ 情報サービス局内に「地域サポート」担当を設置（7月の組織改編時）。
—— 支店・事務所、金広委との連携強化により、地域広報活動の強化、運営の効率化を図る。
- ・ 各種資料（コンテンツ）を作成し支店・事務所に配布。各支店・事務所での作成資料を全店で共有。
- ・ 金広委と連携して、ペイオフ全面解禁、銀行券改刷等の広報を行う。

以上

< 『にちぎん キッズ』 >

- ・ お金、銀行、中央銀行の機能等を、子どもが関心を持ちながら学べるよう、アニメーション、ゲーム等の要素を取り入れ、「分かりやすく」、「親しみやすく」解説。
- ・ 4月20日開始。



< 『This is 日本銀行』の動画配信 >

- ・ 昨年9月完成の日本銀行紹介ビデオ。日本銀行の機能、役割等を、一般の方々に、分かりやすく、親しみやすく、テンポ良く紹介。
- ・ 現在は、日本銀行本支店への見学者や金融資料館（旧小樽支店）への来館者向けに上映。
- ・ 4月20日開始。



< 旧館ライトアップ >

- ・ 日本銀行旧館（本館）は、工事着工明治23年、完成29年。
- ・ 設計者は、東京駅の煉瓦造り駅舎や旧両国国技館の設計も手がけた辰野金吾。
- ・ 昭和49年に国の重要文化財に指定。
- ・ 本年夏～秋にライトアップ実施の予定。



（イメージ図）

< 旧館地下大金庫の公開 >

- ・ 明治29年完成後、100年以上使用。
- ・ 現在の金庫扉は米国製で昭和7年取り付け。重量は扉15t、枠10tの合計25t。総面積は1,000㎡超。
- ・ 本年夏頃を目処に公開開始の予定。



< 現金輸送用貨車「マニ車」の寄贈・展示 >

- ・ 現金輸送用荷物客車として昭和24年に初めて製造。今回寄贈・展示の「マニ車」は昭和54年製造。
- ・ 長さは21m、重量31t。
- ・ 平成15年度まで現金輸送に用い、全国の支店に銀行券を輸送。
- ・ 本年夏頃までに引渡しの予定。



金融資料館
(日本銀行旧小樽支店)



現存する国内最古の機関車(鉄道記念物)を中心に3棟の建物の中に、国産第2号の蒸気機関車「大勝号」ほか雪かき車など8両を展示・保存。SL「アイアンホース」もここに格納しています。



鉄道車輛保存館

